

第3次横須賀市子ども読書活動推進計画 ～第3次愛読プラン～

《案》



横須賀市教育委員会

目次

第1章 第3次計画策定にあたって

- 1 子どもの読書活動の意義..... 1
- 2 国、神奈川県の動向..... 1
- 3 横須賀市の計画..... 1

第2章 横須賀市の子どもの読書活動の現状

- 1 横須賀市の児童生徒の読書実態調査..... 2
- 2 第2次計画の成果と課題..... 5

第3章 第3次計画の基本的な考え方

- 1 第3次計画の目標..... 10
- 2 第3次計画の基本方針..... 10
- 3 第3次計画の取組期間..... 11

第4章 第3次計画の具体的な取組

- 1 家庭・地域における子どもの読書活動の推進..... 13
 - (1) 家庭における読書活動の推進..... 13
 - (2) 地域における読書活動の推進..... 15
 - (3) 市立図書館における読書活動の推進..... 16
- 2 学校・保育園・幼稚園における子どもの読書活動の推進..... 17
 - (1) 保育園・幼稚園における読書活動の推進..... 17
 - (2) 小中学校における読書活動の推進..... 18
 - (3) 高等学校における読書活動の推進..... 20
 - (4) 特別支援学校における読書活動の推進..... 21
- 3 関係機関・団体等における子どもの読書活動の推進..... 22
 - (1) 博物館・美術館等と連携した取組..... 22
 - (2) 社会教育関係団体等と連携した取組..... 23
- 【重点取組】..... 24

第5章 第3次計画の推進に向けて

- 1 成果指標..... 26
- 2 進行管理..... 26

事業一覧..... 27

関係資料..... 31

横須賀市の児童生徒の読書実態調査報告

第1章 第3次計画策定にあたって

1 子どもの読書活動の意義

子どもにとって、誰かに本を読んでもらったり、自ら読書を楽しむことは、言葉を知り、感性を育み、表現力を高め、想像力を豊かにしてくれます。自分の経験したことに照らし合わせて深く考え、理解する一方、未知の世界や物事を体感することで、自分自身に変化、成長することができます。

そして、子どもが自発的な読書習慣を身に付け、読書体験を重ねていくことで、子どもが人生をより豊かに生きるために欠くことのできない「生きる力」を育むことができると考えられています。

2 国、神奈川県の変向

読書の持つ計り知れない価値に鑑み、子どもの読書活動の総合的・計画的な推進を図るため、国は「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年法律第154号）を公布し、平成14年8月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を発表しました。

そして、平成20年3月「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（第二次）、平成25年5月には「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（第三次）を発表しています。

国の基本計画を受け、神奈川県では平成16年1月に「かながわ読書のススメ～神奈川県子ども読書活動推進計画～」を策定し、平成21年7月には「かながわ読書のススメ～第二次神奈川県子ども読書活動推進計画～」、平成26年4月には「かながわ読書のススメ～第三次神奈川県子ども読書活動推進計画～」を策定しています。

3 横須賀市の計画

平成19年1月に策定した「横須賀市子ども読書活動推進計画～愛読プラン～」(以下、第1次計画という)では、ブックスタート事業やおはなし会等のイベントを実施して、新生児から小学校低学年児童への取組に重点が置かれていました。5年後の平成24年度に策定した「第2次横須賀市子ども読書活動推進計画～第2次愛読プラン～」(以下、第2次計画という)では、学校図書館を中心に小中学校における読書活動の推進を重点取組としました。

そして本年度、今後4年間の子どもの読書活動の推進に関する施策の方向性と取組を示す新たな計画である「第3次横須賀市子ども読書活動推進

計画～第3次愛読プラン～」(以下、第3次計画という)を策定します。

第3次計画では、第2次計画の取組の成果と課題を明らかにするとともに、本市の子どもたちの読書活動の現状を整理し、新たな課題に重点的に取組むこととします。

第2章 横須賀市の子ども読書活動の現状

第2次計画から5年が経過する中、子どもを取り巻く環境は、テレビゲームやインターネット、スマートフォンの普及、またそれらに伴ったSNSによるコミュニケーション量の増加など、情報メディアの発達等により、生活環境の変化や価値観の多様化が加速しています。

1 横須賀市の児童生徒の読書実態調査

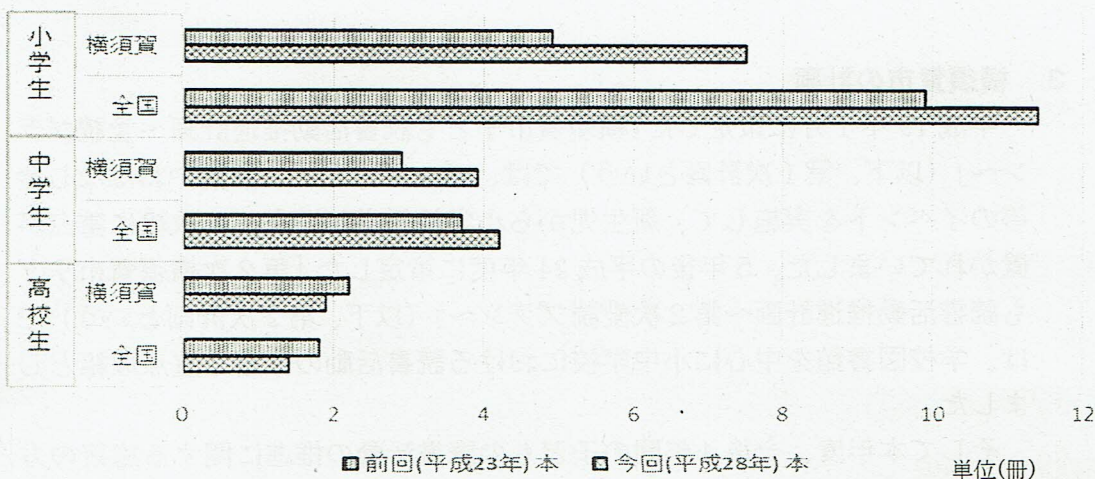
(1) 児童生徒に対する調査結果から

月間平均読書冊数全国比較

		今回(平成28年)			前回(平成23年)		
		本	マンガ	雑誌	本	マンガ	雑誌
小学生	横須賀	7.5	8.5	1.5	4.9	7.4	1.9
	全国	11.4		3.7	9.9		4.9
中学生	横須賀	3.9	9.8	1.7	2.9	10.9	2.3
	全国	4.2		1.7	3.7		3.3
高校生	横須賀	1.9	6.0	0.7	2.2	8.4	3.1
	全国	1.4		1.3	1.8		2.4

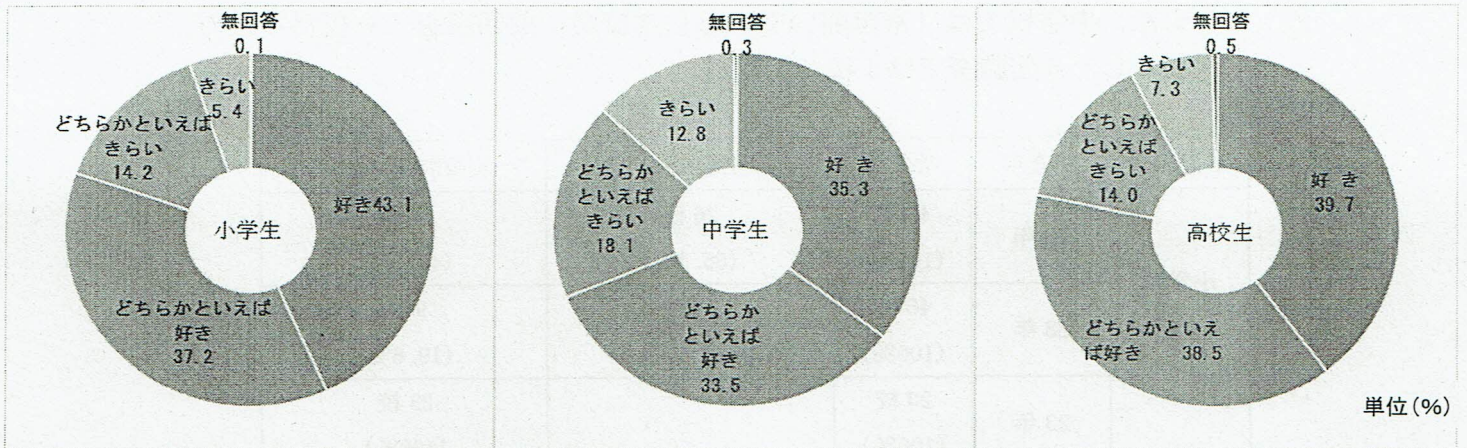
単位(冊)

月間平均読書冊数



ア. 本市の小学生、中学生の本、雑誌の月間平均読書冊数は、平成 23 年、28 年ともに、引き続き全国平均を下回っています。ただし小学生、中学生の本については前回調査より増加傾向にあります。

イ. 本を読むのが好き、どちらかといえば好きと回答した児童生徒を合わせると、小学生では 80.3%、中学生は 68.8%、高校生は 78.2%で、非常に多くの児童生徒が読書に好感を持っています。



ウ. そして、本を読むのが好きか嫌いかで本の読書冊数に大きな差があり、小学生の場合、本を読むのが好きと回答した児童の月間読書冊数は 12.1 冊で、きらいと回答した児童は 1.4 冊となっています。

エ. 学校図書館の利用調査では、よく利用する、ときどき利用すると回答した割合は、小学生では、52.2%と半数以上となっているのに対し、中学生では 21.3%、高校生では 34.6%となっています。

利用しない理由を見ると、小学生と中学生は「読みたい本がないから」が一番多いのに対して、高校生は「行く時間がないから」が一番多く、「読みたい本がない」は三番目となっています。

学校図書館利用

単位（%）

区分	よく利用する	ときどき利用する	あまり利用しない	利用したことがない	無回答
小学生	14.7	37.5	42.0	5.7	0.1
中学生	5.0	16.3	38.3	40.0	0.4
高校生	10.6	24.0	32.5	31.8	1.1

(2) 学校に対する調査結果から

ア. 学校の取組に対する調査では、朝の読書（10分間読書）等の実施において、中学生の場合、実施している学校の生徒の月間読書冊数 4.3 冊に対し、実施していない学校の生徒は 3.2 冊であり、学校における読書活動の推進は、本市の児童生徒に効果的な影響があるといえます。

イ. 学校図書館の開いている時間については、小学校では「常時開いている」学校は 80.4%で、平成 23 年度の前回調査の 55.3%から増加しています。また、中学校では「常時開いている」学校が、前回調査で 0 校だったのに対し、今回調査では 1 校でした。

学校区分	調査年	学校数	常時開いている	一定時間開いている
小学校	23 年	47 校 (100%)	26 校 (55.3%)	21 校 (44.7%)
	28 年	46 校 (100%)	37 校 (80.4%)	9 校 (19.6%)
中学校	23 年	23 校 (100%)	—	23 校 (100%)
	28 年	23 校 (100%)	1 校 (4.3%)	22 校 (95.7%)

2 第2次計画の成果と課題

(1) 家庭・地域における取組の成果と課題

成 果	課 題
<p>○ブックスタート事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内のほぼ100%の赤ちゃんと保護者に、ブックスタートパックを渡し、読み聞かせを行い、乳児が初めて本と接する機会づくりを提供することができました。 <p>○ブックリストの配付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成16年度から市内の幼稚園児・保育園児の保護者用として、幼稚園児・保育園児の全員分のブックリストを作成・配付し、家庭での読書環境づくりを支援することができました。 <p>○文庫等への団体貸出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のボランティアが運営する文庫活動への団体貸出を継続して行いました。また、市民病院や児童相談所に団体貸出を行い、その施設利用者に関覧の機会を提供しました。 <p>○リサイクル本の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年会館および青少年の家では、児童図書館からリサイクル本を譲り受け、それを閲覧に供しました。愛らんどよこすか、愛らんど追浜では親子で読む絵本やおはなし会で使用する絵本、紙芝居を市立図書館の団体貸出やリサイクル本制度などを利用して調達し、市立図書館との連携を深めました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児健康診査時に絵本の配付を検討したが、予算が計上できず実施できませんでした。 ・ブックスタート時（乳児期）と義務教育時期（学童期）をつなぐ事業の実施が課題です。

<p>○読み聞かせ等の講座の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各コミュニティセンターで、絵本や紙芝居の読み聞かせ等の講座を実施し、子どもの豊かな感性と情操を育て、親子のふれあいを深めることに貢献しました。 <p>○おはなし会等の図書館行事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童図書館、北図書館および南図書館で、ボランティアと図書館職員で定期的におはなし会を実施しました。児童図書館では、子どもが好きな本の作者に会える機会として、絵本作家によるワークショップを行いました。また、手作り絵本教室やおりがみ教室、市立博物館や市立美術館との共催でわくわく「ムシ」たんけん等魅力あるイベントを拡充し実施し、子どもの市立図書館の利用促進および読書習慣の確立に貢献しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな事業や図書館イベントを実施し、児童書の貸出冊数も微増していますが、第2次計画の目標指標（平成29年度 519,000冊）には至っていません。 ・子どもにとって楽しく親しみやすい市立図書館をめざし、子どもの読書に対する興味・関心が広がるような図書館環境の提供が課題です。
---	---

(2) 学校等における取組の成果と課題

成 果	課 題
<p>○学校等への団体貸出・特別貸出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立図書館から幼稚園や保育園、学校への団体貸出、特別貸出を実施し、子どもと本をつなげる活動を進めることができました。 <p>○図書館見学の受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立図書館では、幼稚園や保育園、学校の図書館見学を受け入れ、またその際におはなし会や図書館カードの発行等を行い、市立図書館の利用を促すことができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校図書館の蔵書に限りがある現状の中で、さらに市立図書館の本を学校教育において活用するための方策が課題です。 ・幼稚園・保育園等による市立図書館訪問やリサイクル本の市立保育園・市立幼稚園への提供などを実施していますが、図書館職員が幼稚園・保育園に直接出向いて取り組むような積極的な事業は実施できませんでした。